

### 第3期宮前区区民会議 第1回（仮称）地産地消部会 摘録

日 時 平成22年8月31日（火）18：00～20：00

場 所 宮前区役所 保健所1階集団教育ホール

参加者 委 員 山下委員長、恒川副委員長、河井委員、久保委員、高橋委員、  
種村委員、平井委員、持田委員、吉田委員  
事務局 岩佐企画課長、豊田担当係長、鈴木職員  
佐谷コンサルタント

#### 1 専門部会の流れ、今後のスケジュール

**恒川** 部会長と部会名については、次回決めていきたい。

**区** 「任期2年間の流れ」、「審議テーマ絞込みの過程（振り返り）」、「宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくりイメージ」の説明。

#### 2 「宮前区らしさ・地域特性を活かしたコミュニティづくり」とは

**恒川** 全町連で、向こう三軒両隣であいさつができる関係、命を守ることが大事だと話した。その時にサイレントマジョリティが楽しみながら参加する仕掛けづくりが大事だと思った。

**久保** 友達に意見を聞いたら道の駅に関心をもった。商店街の人と知り合いになりたい、空き店舗を利用してレストランをやりたい、という話だった。

また、私は自主保育のときに公園で木を切っている人にもらって活用していた。捨てているものも活用できるのではないかと思う。

さらにJAで地産地消をやっているということだが、もう少し調べたい。

**吉田** コミュニティづくりでは土橋が成功していて、盆踊りに相当の人が来ている。運動会にも人が集まっている。もっと他の地域に知らしめればいいのではないか。

**高橋** 今の話では、資料の「①興味を引く」はできているのではないか。

**種村** 菅生地域では盆踊りをやっても人が来ない。それで子ども祭りをやってやっと人を集めている。

**久保** 子育て支援関係者連絡会で子育て初心者を集めたが、子どもを産んで始めて地域に目が向いたという意見があった。菅生はマンションが建ち始めていて、これから変わるのではないか。

**種村** 子どもの関係で母親はつながりができるが、父親はつながりができない。

**久保** 飛森谷戸でキャンプをしたときにお父さんが来ていた。大勢が集まるイベントより、こぢんまりした集まりだといいのではないか。

**平井** 地域でやっていることを情報提供した方がいい。また、体験すると楽しさが伝わる。さらにJAでやっている地産地消を調べたい。

**恒川** 情報提供という面では「歳時記」を活用するとよい。

**平井** イベントだけでは参加しただけで終わりにになってしまう。

**高橋** 盆踊りを回っていたが、情報として発信していく必要がある。また、人集めだけではみんなお客さんになってしまう。担い手づくりにつなげたい。商店街の空き事業は他のところで月70万円の赤字になっている。

### 第3期宮前区区民会議 第1回（仮称）地産地消部会 摘録

河井 直売所については地域振興課が農のフォーラムでやっている。

高橋 「④担い手となる」の人材づくりが大事ではないか。コミュニティカレッジでもやっているが、さらに進めていくべきだと思う。また、情報を結びつけていく必要がある。ぽーたろうをもう少し機能させる。

恒川 「①興味を引く」に戻って考えを出してほしい。また、何をテーマとしていくのか？

高橋 「人」も宮前の地産地消ではないか。

恒川 人材育成のことを区民会議でどうやっていくかというアイデアがあればやってもいいと思う。

持田 「地元への愛着」というのがあるが、イベントは愛着がなくても来る。人は人のつながりで段々引きこんでいくという昔ながらの手法でやっていくしかない。地産地消とコミュニティをどうやってつながっていくかがわからない。

山下 みなさんは「④担い手」や「⑤地域のコア」であると思う。みなさんがどういうきっかけでそうなったかを話していけばヒントが出てくるのではないかな。

吉田 定年の時にたまたま町会の役員になった。また、50年史をつくるので、地域のことを調べた。これらがきっかけになったと思う。

持田 「なぜ人が集まらないか」「こうすれば人が集まる」というのを考えていけばいいのではないかな。

区 コミュニティをつくるという課題を解決するには、サイレントマジョリティに地域に関わってもらうことをやっていくということについてはどうか。コミュニティの大きさはいろいろあるが、区民会議としては22万人を対象に考えていくというのはどうか。

コンサル 今までの話では「①興味を引く」や「②参加し、楽しんでもらう」はできているが、「③人材の発掘」や「④担い手づくり」ができてないと言うことではないか。

区 個別には成功事例があるが、そうでない無関心な人たちがほとんどで、それらの人に目を向けてもらうことをやっていく、ということはどうか。

恒川 部会としては「①興味を引く」や「②参加し、楽しんでもらう」をやっていってはどうか。

高橋 「①興味を引く」というが、そのためには人材が必要ではないか。

久保 情報誌などをつくるからいけないのではないかな。つくる時に人を巻き込む。梨狩りでも調べる段階から参加してもらうことが大事ではないか。担い手をつくる仕掛けが必要ではないか。

区 イベントをやって楽しいということがあり、その中から1%でも担い手になったらいいのではないかな。

久保 担い手になれることを常に発信しないとダメだと思う。「担い手になってください」という働きかけをしていくことが大事だと思う。

平井 参加した人から意見を聞くとか、情報を発信していくことが大事だと思う。まずは「あるよ」という発信から。

区 担い手をつくっていくには、裾野を広げていく必要がある。

吉田 町会の班長は順番でなっていくし、班長が盆踊りの責任者になる。そうすると興味をもつ人も出て来る。

高橋 地産地消でレストランをつくるとすると、このメンバーでやるということか？

### 第3期宮前区区民会議 第1回（仮称）地産地消部会 摘録

区 それは違う。

恒川 「何を」を検討していった方がいいのではないかな。

区 その前に、「①興味を引く」というところをやっていくかどうかを話し合った方がいいのではないかな。今あるものを使っていく。

久保 「①興味を引く」というのはイベントをやるというイメージがある。

区 イベントだけではなく、通常の地域活動でもいいと思う。

平井 この枠組は活力部会でも同じなのかな？中身が違うということかな？

区 枠組みは同じ。中身となる題材が異なる。

コンサル 資料の半分から上は納得できているが、下の部分で意見がわかれているように思う。

久保 上の部分はいいと思うが、担い手づくりが大切だと思う。

区 担い手についてサイレントマジョリティに求めると逃げてしまうと思う。

高橋 裾野を広げることも一つの方法だと思うが、それ以外の方法もあると思う。観光協会ではラーメン選手権なども考えているし、この前、ねぶたをつくったが、手がかかったが子どもたちに来てもらった。裾野を広げるということもあるとは思いますが、コミュニティをコーディネートしていく人を育てていくことが大事だと思う。

区 子どもを産んで地域のことを知ることができた。イベントに来ている人の中から人材を見つけて担い手を一本釣りをしていく。そのためには裾野を広げることが大事ではないかな。

恒川 「何を」ということを次回、検討して、それをどう発展させていくかを考えていったらいいのではないかな。

持田 夢を語っていいのかな、こじんまりとしたことなのかな？

恒川 どちらでもいいと思う。「道の駅」でもいいのではないかな。

河井 予算のことも考えてしまう。夢を語ると、それを誰がやるかということになる。

平井 サイレントマジョリティの人だけに興味を引こうというというのが引かかる。そうではなく、関心を持っている人を引き込むこともあるのではないかな。

区 サイレントマジョリティは、関心を持っていない人もいるし、関心を持っているが地域活動に参加していない人もいる。いろんなバージョンがある。

恒川 サイレントマジョリティで95%が無関心というのではなく、きっかけがあれば参加すると思う。

持田 「人が集まるイベント」というイメージになってしまう。

恒川 次回には具体的に内容を考えていく。また、部会長、部会名も次回決めたい。

### 3 その他

区 次回日程は9月28日（火）か9月30日（木）のいずれかで決めたい。時間は18時から。

（以上）